

高	住吉	石	誕	反	石	五	市	浅	大	種	楠	侍	志	若	船	大
たか	すみよし	いし	たん	そり	いし	ご	いち	あさ	おお	たね	なん	おも	し	わか	ふな	たい
庫	御文庫	灯籠	生石	橋	舞台	所御前	戎大國社	沢社	歳社	貸社	環社	者社	賀神社	宮八幡宮	玉神社	海神社
くら	ぶんこ	どうろう	せき	はし	たい	ぜん	しゃ	しゃ	しゃ	しゃ	しゃ	しゃ	しゃ	べう	しゃ	しゃ

## 撰末社

山幸海幸の神話で有名な海神豊玉彦、豊玉姫を祀り、本社について御神格の高い社です。御本殿は本社と同じ形式の「住吉造」で、本殿・渡殿・幣殿・西門と共に重要文化財に指定され、社前の「玉の井」は海神より授かった潮満珠を沈めたと伝えられています。

船玉とは、船舶を守護する船霊のことで、船乗りや漁業の海上安全はもとより、航空関係者からも信仰を集める古社です。

神功皇后の御子応神天皇(八幡様)をお祀りし、一月十二日の湯立神事(湯神楽)は有名です。

大海神社境内にあり、伊弉諾尊の禊祓の時、住吉三柱大神と共に生れ出で給うた底津少童命・中津少童命・表津少童命をお祀りしております。

神功皇后の命をうけて住吉大社最初の神主津守氏の祖田裳見宿禰、市姫命を祀り、縁結の神として良縁を祈願する、おもと絵馬を奉納する参拝者が多い。

第一本宮の裏にある樹齢約千年の楠を御神木としてお稻荷様(宇迦魂命)を祀り、商売繁盛に格別の御神徳あり、俗に「初辰さん」と称えられて毎月初の辰の日には多数の参詣で賑わい、特に毎月招福猫を受けて満願となる四十八回の月詣りは有名です。

延喜式にも見える古社で、五穀の種を授かり豊作となる信仰がもととなって、商売の資本(種銭)や智恵(智恵種)を得たり、種貸人形を受けると子宝を授かる信仰があります。

大歳神を祀り、収穫の神であるところから集金、商売繁盛、家内安全、心願成就の御神徳があり、毎月初の辰日に祈願する人々で賑わいます。

市杵島姫神を祀り、福の神、婦人の作法、芸事の守護神として崇敬されています。昔は浅沢小野の「杜若」として世に知られた名所でした。

事代主神・大國主神を祀り、商売繁盛の守護神で、市の守り神とされています。一月九・十日の市戎大國祭(えべっさん)は、賑々しいお祭が行われます。

第一本宮と撰社若宮八幡宮との間にあり、杉樹が石の玉垣の内に立っています。昔神功皇后が当社を御鎮祭のため社地をお定めになる時、この杉の木に鷹が三羽来て止りましたので、当地が大神の御思召の場所としてここに祀られたと伝え「高天原」とも呼ばれています。

日本三大石舞台の一つで、舞楽を演奏するところです。南門・東西楽所と共に慶長十二年(一六〇七)豊臣秀頼が奉納され、重要文化財に指定されています。

住吉の象徴として名高く太鼓橋とも呼ばれています。長さ二〇米、幅五・五メートル、高さ三・六米、現在の石の橋脚は慶長年間淀君が奉納したものが伝えられています。

池の畔に川端康成「反橋」の文学碑が建っています。薩摩藩主島津氏の相島津忠久誕生の処と伝えられ、島津家代々の信仰が厚く丹後局の伝説により安産を祈る聖地となっています。

境内の石灯籠は六百余基に達し、その形も頗る壮大なもの、優雅なものなど多く、頼山陽、池大雅、貫名海屋、篠崎小竹、五井蘭州、羽倉可亭など名家になる題字を刻んだものもあり、近世の住吉信仰を窺えます。

第一本宮の北に建つ二階建・土蔵造の御文庫で、享保八年(一七二三)に三都(大阪・京都・江戸)の書林が奉納、大阪最古の御文庫として有名です。

第一本宮の後方にある二棟の板校倉造で、井楼造ともいわれています。御神宝を納める庫にて、慶長十二年(一六〇六)の建物と伝えられています。

平成二十二年(二〇一〇)招魂社などと共に重要文化財になりました。

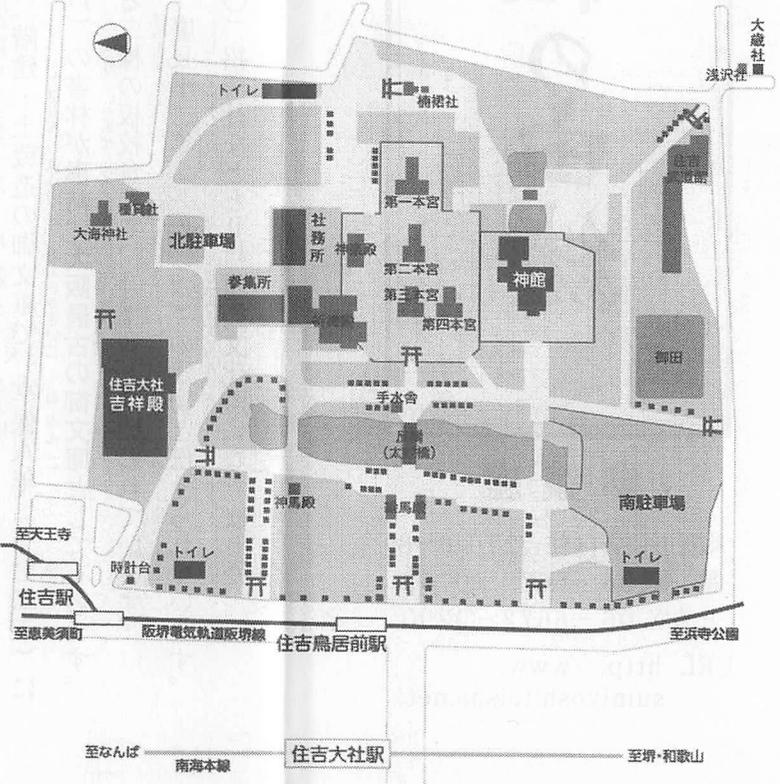
# 住吉大社の由緒

## 御鎮座

大阪市住吉区住吉2丁目9-89  
 電話 06-6672-0753  
 FAX 06-6672-0200  
 URL <http://www.sumiyoshitaisha.net>

御祭神  
 第一本宮 底筒男命  
 第二本宮 中筒男命  
 第三本宮 表筒男命  
 第四本宮 息長足姫命(神功皇后)

底筒男命、中筒男命、表筒男命の三神を総称して住吉大神と申し上げ、伊弉諾尊が橿原に祓除せられたとき、海の中より出現せられた神様です。



御鎮座  
 神功皇后は、新羅御出兵に当って、住吉大神の御加護を得て大いに国威を輝かせられ、御凱旋の後、大神の御神託によって此の地に御鎮祭になりました。皇后撰政十一年卯年のことで、今から約千八百年前のことであります。皇后の御孫、仁徳天皇が浪速に遷都せられて墨江の津を開港せられ、後に大阪、堺の発展をもたらしましたのは、実に此の時に起因しています。

御神徳  
 後、皇后をも併せお祀り申上げ、住吉四社大明神と崇められ、延喜の制では名神大社に列せられ、朝廷奉幣の二十二社の一つ、由緒の深い撰津国一の宮として聞え高く、昭和二十一年まで官幣大社でありまして、全国二千余に及ぶ住吉神社の総本宮です。

祭祀  
 住吉大神は、禊祓の御神格をもって御出現になりましたので、住吉祭は「おはらい」と呼ばれる程、神道でもっとも重要な「祓」のことを司る神です。また、住吉大神は、「吾が和魂をば宜しく大津の渟中倉の長峽に居さしむべし、便ち因りて往来ふ船を看護さむ」と神功皇后にお告げになった由が日本書紀、住吉大社神代記に見え、海上安全の守護神であり、奈良時代、遣唐使の発遣には、必ず朝廷より当社に奉幣があり、その海上無事を祈りました。そのほか歌神として、歌道の上達を志す人が当社に祈り、あるいは現実に姿を現わされる現人神としての信仰もあり、産業商業・文化・貿易の祖神と仰がれています。

御崇敬  
 住吉大社の夏祭り(住吉祭)は、ただ単に「おはらい」とも呼ばれ、国中の大祓を行なうお祭りです。七月三十一日、午後五時より夏越大祓神事(大阪府指定無形文化財記録選択)につき例祭が行なわれ、翌八月一日には堺界院の頓宮に御渡があり、荒和大祓が行なわれております。そのほか、踏歌神事(一月四日)白馬神事(二月七日)御結鎮神事(二月十三日)松苗神事(四月三日)卯之葉神事(五月上卯日)御田植神事(六月十四日)重要無形民俗文化財)宝之市神事(十月十七日)等の神事があります。

御社殿  
 大社の祭祀は、千八百年來連綿と続いていますが、中でも伊勢の神宮と同じく、二十一年一度の式年造替遷宮の制が、はやくも奈良時代より確実に実施せられていました。近世以降よりは、破損に従って修理する例となりましたが、遷宮の根本の制は今日にひきつがれ、平成二十三年には、御鎮座千八百年記念大祭・第四十九回式年遷宮を執り行いました。

御社殿は、第一本宮より第三本宮まで縦に、第四本宮は第三本宮の横に並ぶという他に例をみぬ縦並びの配置で、各本宮とも御本殿は「住吉造」と称せられる神社建築史上最古の特殊の様式で、四棟は国宝に指定され各本宮の渡殿・幣殿は重要文化財に指定されています。

有の四角鳥居に接続しています。